

出幅移動桁B

取付説明書

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 本製品はJテラスRタイプ、Hタイプ(7～10尺/積雪地用6尺)に設定したものです。他の製品には取付けられませんのでご注意ください。
- 本取付説明書ではJテラスRタイプ(7～10尺/積雪地用6尺)をRタイプ、JテラスHタイプ(7～10尺/積雪地用6尺)をHタイプと表記します。
- テラスは簡易型屋根です。物置・遊び場或いは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
- 桁位置を2400mmで施工する場合はロング柱を、2900mmで施工する場合は出幅移動桁A用ロング柱を使用してください。

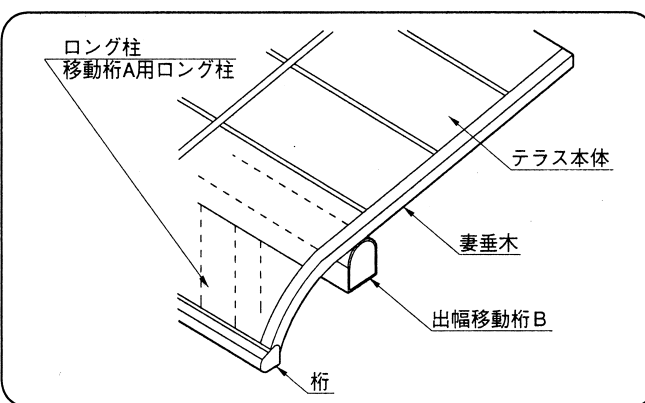
<施工の前に>

- ①正しく施工、組付けをしていただく為に、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- ②設置場所の確認
 - ①施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
 - ②強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道等の施工は避けてください。
 - ③施工場所の気象条件(風雪等)に合った商品かどうか確認してください。
- ③梱包明細で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- ④組立て、施工途中では
 - ①ボルト、ビスは弊社純正商品の規定本数を確実に締付け固定してください。
 - ②取付説明書の順序通り組付けてください。製品の強度等、性能を低下させる場合があります。
 - ③アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。
- ⑤基礎工事について
 - ①基礎寸法は、取付説明書の通りの寸法としてください。地盤の種類によっては、倒壊の危険性が発生します。
 - ②基礎コンクリートには、塩分を含む砂、および塩素系のモルタル混和剤や急結剤を使用しないでください。
- ⑥製品の改造は絶対に行わないでください。
- ⑦施工完了後は
 - ①ボルト、ビス等に緩みがないか確認してください。
 - ②施工中の汚れは取り除き、誤ってつけたキズは、補修塗料をしてください。
- ⑧施工終了後、取付説明書は、施主様にお渡しください。

■梱包明細書

名 称	員 数				
	基 本		連 棟		
	1.0間	1.5間	2.0間	1.5間	2.0間
出幅移動桁B	1	1	1	1	1
移動桁スリーブ	—	—	—	1	1
垂木・桁組付金具	2	4	4	4	4
垂木ライナー	4	5	6	4	5
移動桁Bキャップ	2	2	2	—	—
垂木ライナー取付ネジφ4×35ピասネジ	6	8	10	8	10
垂木・桁組付金具組付ネジφ4×13	4	8	8	8	8
移動桁Bキャップ取付ネジピաս	4	4	4	—	—
スリーブ取付ネジネジ	—	—	—	4	4
取付説明書	1	1	1	—	—

1.各部の名称



2.基本寸法図

Hタイプ

Rタイプ

① 使用する柱は、テラスの桁が標準の施工位置の場合(桁下2400)はロング柱を、ロング柱の桁位置で施工する場合(桁下2900)は移動桁用ロング柱を使用してください。

② 柱の切断寸法は次ページのグラフをご覧ください。

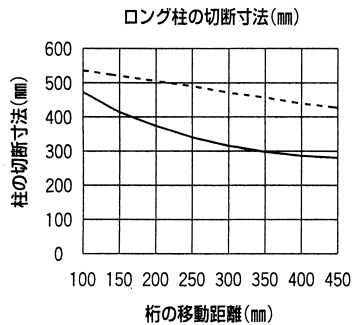
<注 意>

- ロング柱のレベルシールは、関係ありませんのでご注意ください。
- 柱の施工位置等は基本の取説をご覧ください。

2. つづき

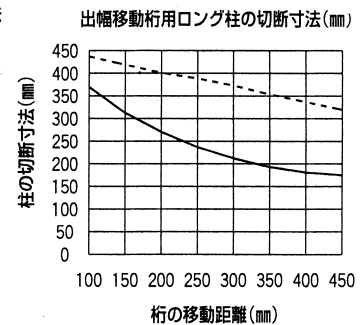
桁をGLから2400mmで施工した場合のロング柱の切断寸法

柱の移動距離	柱の切断寸法	
	Rタイプ	Hタイプ
100	473	537
150	414	520
200	371	504
250	338	488
300	314	472
350	296	455
400	285	439
450	279	423



桁をGLから2900mmで施工した場合の出幅移動桁用ロング柱の切断寸法

柱の移動距離	柱の切断寸法	
	Rタイプ	Hタイプ
100	370	434
150	311	417
200	268	401
250	235	385
300	211	369
350	193	352
400	182	336
450	176	320



—— Rタイプ ---- Hタイプ

- ① 左上のグラフは、テラスの桁位置を高さ2400mmで施工した場合のロング柱の切断寸法です。桁の高さを変える場合は、合わせて切断寸法も変えてください。
- ② 右上のグラフは、テラスの桁位置を高さ2900mmで施工した場合の出幅移動桁A用ロング柱の切断寸法です。桁の高さを変える場合は、合わせて切断寸法も変えてください。
- ③ 柱を切断する場合も、必ずアンカー棒を施工してください。

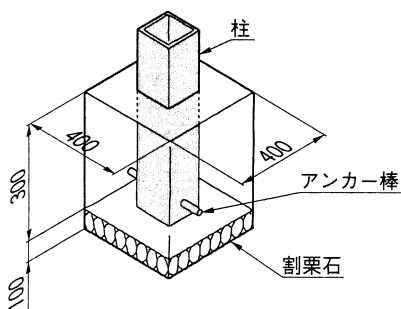
3. 規格表

名 称	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	3.5間	4.0間	4.5間	5.0間	5.5間	6.0間	6.5間	7.0間
ロング柱 (出幅移動桁A用ロング柱)	1本入	—	—	—	1	1	1	2	2	2	2	3	3
	2本入	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
桁セット	1.0間	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	1.5間	—	1	—	—	1	—	—	1	1	—	—	—
	2.0間	—	—	1	—	—	1	1	—	—	1	1	1
連棟用桁セット	1.5間	—	—	—	1	1	1	—	2	1	1	—	3
	2.0間	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	2	—
垂木セット	2本入	—	1	1	2	2	3	3	4	4	5	5	6
	3本入	1	—	1	—	1	—	1	—	1	—	1	—
妻垂木セット	2枚入	—	2	1	2	1	—	2	—	2	1	—	1
	3枚入	1	—	1	1	2	3	2	4	3	4	5	6
出幅移動桁B	1.0間	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	1.5間	—	1	—	—	1	—	—	1	1	—	—	—
	2.0間	—	—	1	—	—	1	1	—	—	1	1	1
連棟用 出幅移動桁B	1.5間	—	—	—	1	1	1	—	2	1	1	—	3
	2.0間	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	2	—

<注 意>

- 連棟する場合は基本のテラス同様、左側を基本桁とし、右側へ連棟してください。連棟部の柱は桁連棟部に設置してください。

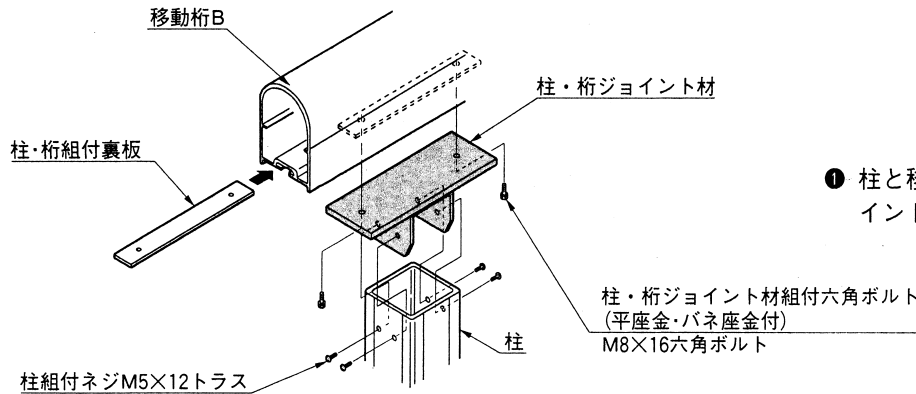
4. 基礎施工



- ① ロング柱、出幅移動桁A用ロング柱を任意の位置に施工してください。
- ② コンクリート施工は骨組完了後に行ない硬化後屋根材を組込んでください。
- ③ アンカー棒は必ず施工してください。

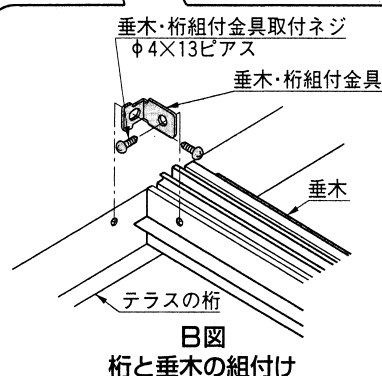
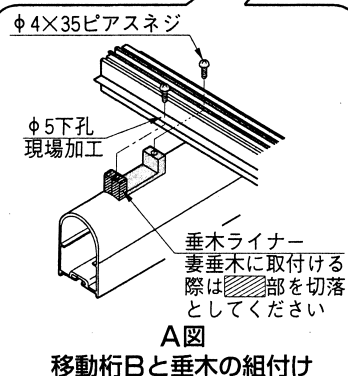
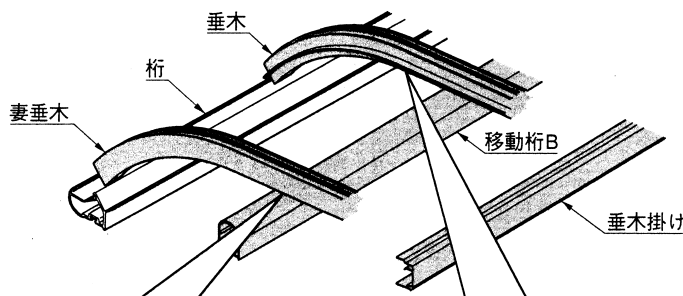
5. 垂木掛けの取付け ➡ 別冊のテラス本体の取付説明書をご覧ください。

6. 柱と移動桁の組付け



- ① 柱と移動桁Bを左図のように柱・桁ジョイント材で組付けてください。

7. 移動桁Bと垂木・妻垂木の組付け

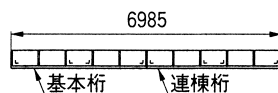


- ① 基本の取説に従って垂木掛に垂木を取付けてください。このとき、出幅移動桁に垂木を仮置きしてください。
- ② 垂木・妻垂木の下面に垂木ライナーを挿入し、垂木・妻垂木と移動桁をφ4×13ピアスネジで固定してください。妻垂木に取付ける垂木ライナーは、端部をカットして取付けてください。(A図参照)
- ③ 基本の取説に従ってテラスの桁を垂木に取付けてください。
- ④ 垂木・桁組付金具を使って、垂木と桁を固定してください。(B図参照) 金具の取付位置は下図をご参照ください。(C図参照)

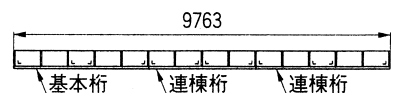
1.0間(基本) 2.5間(基1.0間+連1.5間)



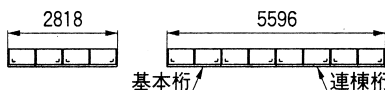
4.0間(基2.0間+連2.0間)



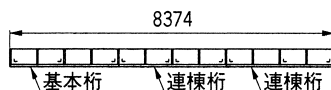
5.5間(基2.0間+連1.5間+連2.0間)



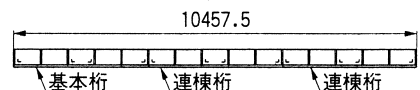
1.5間(基本) 3.0間(基1.5間+連1.5間)



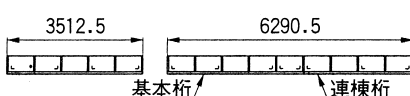
4.5間(基1.5間+連1.5間+連1.5間)



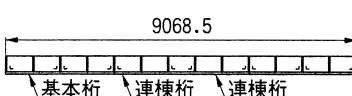
6.0間(基2.0間+連2.0間+連2.0間)



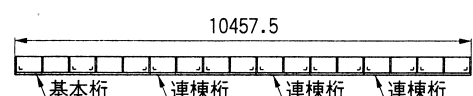
2.0間(基本) 3.5間(基2.0間+連1.5間)



5.0間(基1.5間+連2.0間+連1.5間)



6.5間(基2.0間+連1.5間+連1.5間+連1.5間)



7.0間(基2.0間+連1.5間+連1.5間+連2.0間)

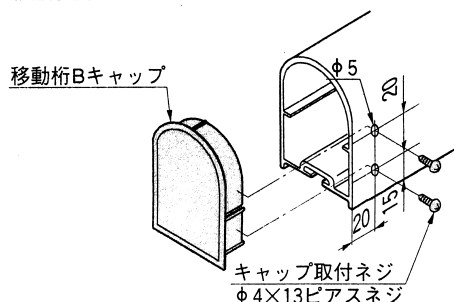


C図
垂木・桁組付金具取付位置

基=基本
連=連棟

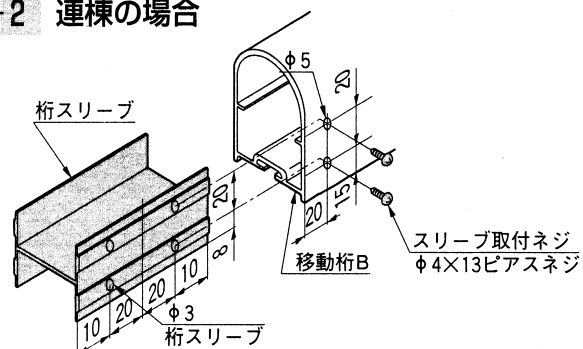
8. 移動柵Bキャップおよび連棟の取付け

8-1 移動柵Bキャップの取付け



- ① 移動柵の端部に上図の孔加工を行なってください。
- ② 移動柵Bキャップを挿入し、キャップ取付ネジで固定してください。

8-2 連棟の場合

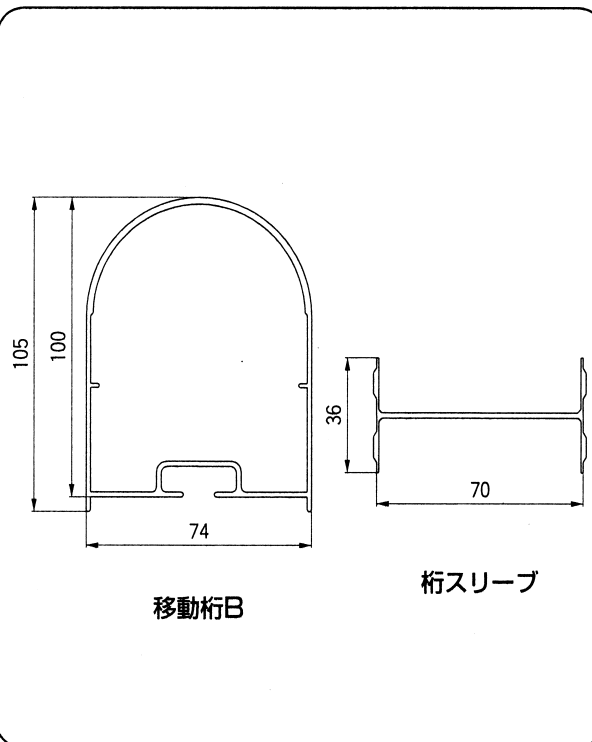
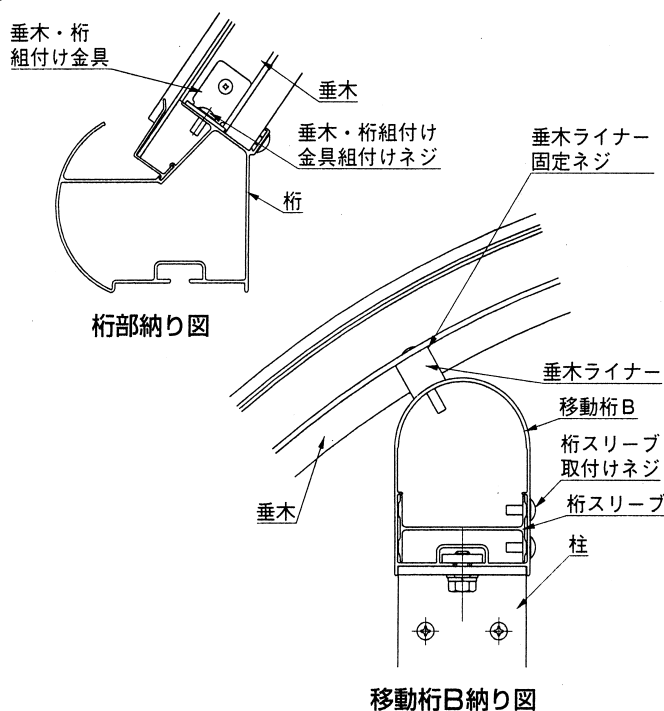


- ① 移動柵の端部に上図の孔加工を行なってください。
- ② 移動柵B用スリーブにも上図のように孔加工を行なってください。
- ③ スリーブ取付ネジで固定してください。

以降の組付けは別冊のテラスの取説をご覧ください。

部材納り図

部材断面図



工事店様へ

- 仕上げ後、本体についているモルタルを完全に拭き取ってください。硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意ください。
- みだりに改造、変更はしないでください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。
- 御使用いただきましてありがとうございました。

施主様へ

- 月に一度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらした柔らかいぞうきんで拭き取ってください。また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取ってください。

取説コード

E069

98-03A
98-10B